

## 代わりがないオンリーワンをめざして

熊田亜紀子（東京大学大学院工学系研究科電気系工学専攻 准教授）

### 仕事の内容とおもしろいところ

高電圧と放電現象に関する研究をしています。具体的には、電荷や電界が細かく、対象物を乱すことなく測れるマイクロセンサや光センサの開発など、高電圧・放電の計測をメインに行っています。高電圧の研究は、電力輸送というエネルギー問題に関係するところなので、関心が高まっています。実際の生活に関係する工学研究である一方で、放電はなぜ進むのかそしてなぜ止まるのか、放電している部位では何が起きているのかを追及するという理学的な楽しみもあります。

### 仕事と生活のバランスについて

夫は同業者で、お互いの仕事の内容がわかることもあり、とても協力的で感謝しています。夕食時にオカズに関する話題のほかに、実験に用いるレーザの性能をまで話し合えるのが、同業者のいいところかもしれません。子供達が小さいこともあり、仕事と子育てのバランスをまさに現在探っている状態です。家事は手を抜くところは抜いてかなり手早くできるほうだと自負していますが、研究に割ける時間は、子供が生まれる前の半分以下まで落ち込んでいます。長い仕事生活でこんな時もある、このままずっとではないと、周囲の手助けを受けて割りきって行こうと思います。

### 進路決定のきっかけ

高校時代「物理」が割と好きだったこともあり理系を、そしてできれば実生活に明らかに役立つものに携われるものをということで工学を選びました。実は、これをやりたいという確固たるものがなかったこともあり、自分の選択肢を減らしたくないという消去法で、扱う範囲の広い（まさに現代社会の基盤ともいえる）電気、電子、情報工学を選びました。いざ進学してみると住めば都(?)で、ハードからソフト、電子一個の様子から地球規模の電力システムまでとても広範囲な世界を扱う分野で、この分野を選んでよかったなと思いました。なお、その分野で代わりがないオンリーワンの存在になれば、結婚しても子供を持っても仕事が続けられそうかな、仕事が家庭と両立しやすそうな職業（転勤があまりない、時間の融通がつきやすい職業）がいいなと思い、研究者をえらびました。

### 進路選択についてのメッセージ

私の所属する電気系工学専攻は女子学生が決して多くはありませんが、女性だからどう男性だからどうということなく、研究機関、メーカー、ユーザ、金融、商社と就職先は多岐にわたり、皆さんご活躍です。私の個人的な感想ですが、大学の進路を選択したのち、わずか数年で、就職という一生ものの選択があり、多くの人にとっては大学進学時の進路選択がその後の人生の選択の間口となっていると思います。

みなさんの周りにはなかなか工学系出身の女性の先輩はいないかもしれませんが、オープンキャンパス、ムック本、ガイダンスなどなどアンテナをはりめぐらして多くのロールモデル情報にふれてみていただければと思います。

#### <熊田 亜紀子（くまだあきこ）プロフィール>

桜蔭高等学校卒業 → 東京大学工学部電気工学専攻卒業 → 同大学院工学系研究科電気系工学専攻博士課程修了 博士(工学) → 東京大学助手 → 東京電力株式会社<結婚> → 東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻講師<第一子、第二子出産> → 現職

